

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 30, No. 9 ACTA UROLOGICA JAPONICA September 1984

泌尿器科紀要

第30巻 第9号 1984年9月

Mitomycin C, Cytosine arabinoside 併用による膀胱腫瘍の腔内注入療法の成績と意義	松田 稔・ほか	1145
表在性膀胱腫瘍に対する Aclacinomycin-A (ACM) の膀胱内注入療法	野口 純男・ほか	1153
膀胱癌に対する RaHPP 療法	和志田裕人・ほか	1159
転移を有する腎癌に対する Cis-diamminedichloroplatinum を中心とした併用化学療法	奥村 哲・ほか	1167
尿路性器悪性腫瘍に対する Cis-diamminedichloroplatinum の使用経験	内田 豊昭・ほか	1173
恥骨上式前立腺摘出術に関する1考察	野口 和美・ほか	1185
前立腺癌における針吸引生検の評価	藤岡 知昭・ほか	1189
DDP のラット精上皮への影響	後藤 修一・ほか	1195
男子不妊症患者の血中セロトニン値について(英文)	石川 博通・武島 仁	1201
誘発筋電図法による球海綿体反射の検討	米田 勝紀・ほか	1207
Cirsoid type 先天性腎動静脈奇型		
—2 治験例と本邦74症例についての考察—	平賀 聖悟・ほか	1213
珊瑚状結石に合併した腎腺腫の1例	福岡 洋・ほか	1225
先天性多嚢腎の7例 —特にその発生に関する考察—	信野祐一郎・ほか	1231
慢性透析患者に発生した腎細胞癌の2例	高原 正信・ほか	1239
萎縮膀胱をともなう原発性両側膀胱尿管逆流現象の		
小児に対する Cohen 法の適応	進藤 和彦・ほか	1245
異所性尿管瘤の1例	西村 泰司・ほか	1251
尿管癌の3例 —本邦237例の臨床統計—	奥村 哲・ほか	1255
対側腎無形成をともなった精囊嚢胞の1例	島村 正高・ほか	1263
精索悪性線維性組織球腫の1例	村山 和夫・ほか	1269
両側生殖細胞性睾丸腫瘍の自験3症例と本邦報告例の臨床的検討	恒川 琢司・ほか	1275
転移巣で成熟化のみられた、左右の組織を異にする		
両側精細胞性睾丸腫瘍の1例	浅野 清豪・ほか	1285
ハエ蛆症を合併した自己陰茎切断の1例	富田 雅乃・ほか	1293
DL-8280 の前立腺組織ならびに前立腺液移行	公文 裕己・ほか	1297
複雑性尿路感染症に対する DL-8280 の薬効評価		
—Pipemidic acid との二重盲検比較試験—	岸 洋一・ほか	1307

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

購 読 要 項 (1983年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料6,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投 稿 規 定 (1983年8月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
 2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文7頁(400字×28枚程度)図(Fig)10枚、表(Table)5枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名(山田：または 山田・ほか。)と、2語(例：前立腺がん・PSAP)からなる running title および5語(英文)以内の key words を付す。
 - (ロ) 英文抄録：本文とは別に標題、著者名、所属機関名、抄録本文の順にダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words(和文に準ず)、running title(和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C, pH などとする。
 - (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明文は一括して記載し和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとする。英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。とくに図・表は必ずタイプまたは楷書で清書し、誤りのないことを確認する。とくに、著者校正時、表中の数字の訂正をされないように願います。様式については本誌の図・表を参照する。
 - (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,3,7)}, 田中ら^{1,3-10)}によると)
雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
 - (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
 - (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
 - (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部がおこなう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。
3. 掲 載
 - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
 - (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後におこなう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療器具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
4. 別 刷

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

宮崎 重	新谷 浩
吉田 修(主 幹)	